

# 研修報告書

廿日市高等学校  
出合 富美子

## 1. はじめに

KCCは約35ヶ国から7600人以上の学生が来ており、さまざまな学生の幅広く多様なニーズに応えている。学生は高校を卒業したばかりの生徒だけではなく、転学生徒、社会人学生、高齢者、留学生なども含む。このカレッジは留学生の数が非常に多いため、ESOL（他言語話者のための英語）の集中プログラムが充実している。そのプログラムはCBI（内容中心の指導法）を基礎としており、学生はある一定のテーマについて外国語で学習する。言語能力はプレゼンテーション、ポスターセッション、コンピューターやインターネットの使用、作文、少人数グループでのディスカッション、多読、校外学習、研究といったさまざまな活動によって向上する。今回の研修で私たちはCBIの手法で英語教育について学び、このような活動の多くを体験した。

## 2. 英語教授法に関する研修

これは私たちの研修プログラムの中で主となる研修であった。主に指導してくださったのはマーム教授である。この授業の目的は英語で読む、書く、聞く、話す能力を高めるとともに、内容中心のカリキュラムに従ってさまざまな英語教授法を理解することであった。研修内容は次のとおりである。

- ・英語教授法に関する資料を読み、理解し、話し合うこと
- ・生徒同士の活動を促す手法を理解し、練習すること
- ・ライティング指導のための段階的方法を理解すること
- ・多読と精読の概念を理解すること
- ・CBIにおける、聞いたり話したりする方法を理解すること
- ・実際の英語の授業のための内容中心の単元を計画し、発表すること
- ・英語教授法の最近の傾向や問題に関連したミニリサーチを行なうこと
- ・研究を進め、パワーポイントを使ってプレゼンテーションを行なうこと

この研修はブレインストーミングで始まった。私たちは授業における最大の課題や問題点について話し合い、今まで行ってきた指導法を思い起こし、これから3週間の目標を設定した。日々の研修は一方的な講義ではなく、お互いにやり取りしながら進める実践的な活動だった。マーム教授はCBIに焦点をあて、私たちの英語の授業がよりコミュニカティブに、生徒が主体となって、生徒同士が活動できるようになるため、役に立つヒントを与えてくれた。

私たちはまた、他の二人の教授から音声学や発音についても教わった。これは英語の音声を体系的に理解する助けとなった。私が興味を持ったのは発音の指導法である。それは単語の発音を繰り返すような独立した活動ではなく、内容に関連した活動である。発音を教えるのに面白い指導法がたくさんあることが分かった。

読んだり書いたりする宿題は毎日たくさんあり、寝るのは深夜だった。自分の考えをまとめて書くということに慣れていなかったのも、英語を書くことは特に難しかった。しかし毎日の書く作業が、あとで研究レポートを書くのに役立った。毎日書くということがいかに大切かを実感した。

### 3. 上級言語発達セミナー

このセミナーの目的は特に英語を聞いたり話したりする能力を高めることであった。主にドネス教授が担当してくださった。私たちが求められたことは以下のとおりである。

- ・教育問題セミナーの特別講師の講義を聞いて、正確にノートをとること
- ・講師の講義の概要を報告すること
- ・講義の内容に関する各自の意見や反応について話し合うこと
- ・講義の内容について質問を明確にすること

私たちはたいてい他の授業や校外で学習したことについて話をした。教授は述べるということに特にこだわった。そして発見の陳述と意図の陳述が、何をするときでも大切だと強調した。発見の陳述とは起こったことについて詳細を正確に書き出すことであり、それはおそらく状況を分析することを意味するものと思われる。意図の陳述とは自分がしようと思うことを詳しく書くことであり、これは目標を明らかにして一歩ずつ近づけるようにすることにつながるのだと思う。このような論理的な考え方は、授業を計画したり仕事を行ったりするうえで応用できるものである。

### 4. 教育問題セミナー

#### ハワイにおける公教育の概要

私たちはハワイの教育委員会を訪れた。デール・アサミ氏がハワイの公教育システムについて話してくださった。私は日本とは異なるいくつかの特徴に関心をもった。良い点としては一クラスがわずか25人程度で、それぞれの学校に生徒の精神的な健康を支援するスクールカウンセラーが配置されていることである。一方、教育委員会は慢性的な教員不足に悩んでいる。また、ハワイはさまざまな民族的文化的背景をもった生徒たちが集まっているところであり、時としてそのことにより問題が生じる学校もある。

ハワイは世界中から観光客が訪れ、華やかな場所のように見えるが、物価が高いので暮らしていくには大変である。本土からの教員の多くは、経済的理由により途中でやめてしまう。たいていの親は共稼ぎで、子どもたちだけが家で過ごすことになる。それぞれの場所にそれぞれの教育上の難しさがあるようである。

#### ハワイの言語と教育

KCCの副学長でもあるパゴット博士から、ハワイにおける言語と教育について学んだ。ハワイは多くの移民を受け入れてきたことから、教育と言語の間には密接な関係がある。先生はピジン英語がどのようにしてできたのか、その歴史的背景や現在の問題について話をしてくださった。ハワイ語についての話は興味深かった。ハワイの先住民族はハワイ語を学ぶけれども、日常生活では英語を話すのである。ところがハワイに住む人々は先住民族でない人も含めて、ハワイ語の単語を多く使っている。

先生の講義はその後さらに意味のあるものになった。というのも私たちが校外学習で見たり聞いたりすることと大いに関係があったからである。

#### 新世代TOEFL概論

TOEFLには現在3種類のテストがある(ペーパー版、コンピューター版、インターネット版)。マーム教授がその概要について説明したあと、私たちは従来のものの問題点や新しいものの

メリット, デメリットについて話し合った。さらに, TOEFL の変化によって英語教育がどのように影響を受けるか考えた。

インターネット版 TOEFL は予想以上に改善されている。ペーパー版が読むことに焦点をあてているのに対して, インターネット版は 4 技能が統合されたバランスのよいテストである。受験料が高すぎるのと, テスト会場や日程が限られていることを除けば, よく考えられたテストである。

## 5. 校外学習

私たちはプランテーションビレッジとビショップミュージアムを訪れた。プランテーションビレッジは 1900 年代初期にハワイのあらゆる所にあった, サトウキビプランテーションでの建物の概観を再現したものである。私たちはプランテーションでの生活について説明する展示やビデオをみたあと, 村の中を歩き回った。建物や家にはそれぞれの文化を表す特色がある。自分たちの文化や伝統を守ろうとする人々の気持ちが伝わってきた。

私は 1900 年代の初めまでに, 島の人口の約 40 パーセントを日本人が占めるようになったと知って驚いた。この村を訪れることにより, 移民の歴史を知り, なぜハワイには日系の人が多いのかということが理解できた。

ビショップミュージアムはカメハメハ一族にゆかりのある博物館である。そこでもハワイの文化や歴史について見る事ができた。また伝統的なレイを手作りし, 伝統的なフラダンスも見た。

## 6. ホームステイ

私のホストペアレントであるサンディーとオナは 2 人とも教師である。3 人の子どもたちは大学や仕事で家を離れている。サンディーは小学校の先生でもうすぐ退職。彼の話によれば, 生徒たちの問題の一つはテレビを見てばかり, ゲームをしてばかりだということである。オナの幼稚園には, 英語を第二言語として話す移民の子どもたちがたくさんいる。彼らはお互いコミュニケーションをとるのに多少難しいこともあるが, 幼ければ幼いほど英語を身につけるのも早いと言う。

ホストファミリーとの滞在はわずか二日間であったが, その経験から多くのことを教わった。何よりも英語を勉強や仕事のためではなく日常生活の真のコミュニケーションのために使わなければならない。英語はコミュニケーションの手段であるとよく言われるが, このことをその時実感した。教科書で見る語彙は限られていて, 以前はそのことを気にもしなかった。しかし話したいのにどう表現したらいいのか分からないことはたくさんあった。必要は学習の母である。英語をもっと勉強したいと強く思った。またコミュニケーションは英語を話すことだけを意味するのではない。何をどのように言うかが大切である。態度や気持ちもまた重要である。

私はハワイの人々がどのように暮らしているのかについていくらか理解することができた。またハワイに素晴らしい家族を持つことができたこともよかった。

## 7. 研究レポート

私が改善したい授業の一つはリーディングである。リーディングの授業は本文を読んでそれを日本語に訳していくことに焦点が当てられがちだからである。生徒は分からない単語の意味を一つ一つ確認したが。そして一文一文訳したり, 教師が言う訳を写そうとする。リーディングのテキストにはよくあることだが, 一文が 4 行も 5 行もあり, 一つの話が 1, 2 年生の時に読んだ

ものより長い。たとえ訳を全部書いたとしても、どういう話なのかが分かっていないことがよくある。「木を見て森を見ず」なのである。

この研究レポートでの私の提案はC B Iの手法をリーディングの授業で応用することである。一般的にC B Iでは生徒のニーズや関心に基づいて適切なテーマが選ばれる。生徒はそのテーマについて外国語で学び、最終的には何らかの成果を作りあげることが求められる。一方、高校の授業は教科書を使うことになっていて、教師が自由に教材を選べるわけではない。したがって教師ができることといえば教科書を使いながらC B Iの概念や活動を取り入れることなのである。

それを実行するには難しい問題がいくつかあるが、C B Iは授業がよりコミュニケーションに、学習者中心に、相互に活動できるようになる手がかりを与えてくれる。何よりも、単に言語だけを勉強するより、何かについて学んでいるときのほうが生徒のやる気は増し、結果として森を見ることができるようになるのだと思う。

研究レポートをわずか一週間で書き上げるのは本当に大変だった。文献を探したりそれをじっくり読んだりする時間はほとんどなかった。パワーポイントでレポートの内容を発表するのはさらに緊張した。しかし限られた時間の中でベストを尽くし、やり遂げたことは自分にとって大きな喜びとなった。

## 8. 授業計画の実践

私たちはそれぞれ自分たちの研究に基づく授業計画を作り、交代でその一部を実際にやってみた。一人が教師役をして、あとの二人とマーム教授が生徒役を務めた。もちろんこの生徒は実際の高校生とはずいぶん違っているが、授業計画がどのくらいうまくいくかを確認し、どうすればさらによくなるかを話し合うことができた。

マーム教授が繰り返し言ったことは、生徒たちは私たちが期待する以上にもっとできるということだった。そしていろいろ活動をやってみようと言った。そのことは常に心に留めておかななくてはならない。私たちの最大の課題は学んだことを活かし、授業改善を続けることである。

## 9. おわりに

この研修に参加することは勇気がいることだった。英語を使う、研究レポートを書く、それをパワーポイントで発表する、模擬授業をする、そしてホームステイ。最初はすべてが無理だと思われた。結果的には3週間はあっという間に過ぎ、私はすべてをやり終えていた。このプログラムを通して得たことの一つは自分に対する自信である。やればできるという気持ちを持って、経験のないことでもやっていきたいと思う。

英語を学びたい、そして教えたいという気持ちが強くなったことも一つの成果である。3週間で自分の英語力が飛躍的に伸びたとは言えないが、英語はコミュニケーションの手段として私にとってより意味のあるものになった。英語を教えるということについても、先生たちからさまざまな方法やテクニックがあることを教わったことで、意義あるものとなった。

何よりも貴重なものは私を支えてくれた人々である。K C Cの先生方やコーディネーターの方たちは親切で素晴らしい人たちだった。いろいろと面倒を見てくださり、困ったときには適切なヒントをくれ、励ましてくれた。他の二人の参加者もまた大きな支えとなった。共に築いてきた人間関係は本当に大切なものである。

最後に、このような素晴らしい機会をいただいたことに本当に感謝する。そしてこの研修プログラムが今後も続くことを願っている。